

## 学力向上で成果をあげている主な取組

## 【小学校】

	取組	成果
A 小学校	○ぐんぐんタイム（業前の言語活動タイム）を設定し、テーマに沿った短文作りに取り組んだ。さらに、語彙を増やすプリント学習に取り組んだ。	○記述式の問題への抵抗や無回答率が減少し、正答率が上がった。また、言語分野の基礎基本の底上げを図ることができた。
	○漢字・計算の総復習テストの実施 ・全学年、毎学期に実施 ・テスト前の事前学習、全員合格までの粘り強い指導等、全学年での継続的な取組。	○漢字や計算の基礎的な力が身に付いた。
	○県学テの分析を基にした、発展的な内容を含む算数プリント集を作成。	○基礎・基本の定着や数学的な考え方を伸ばすことに一定の効果があった。
B 小学校	○繰り返しドリルやコバトン問題集などを活用し、多様な問題形式に取り組んできた。	○多様な問題パターンに取り組んできたので、無回答もほとんどなかった。また、既習事項を生かして考えることができ一定の成果が現れた。
	○教科書をしっかり読み込むことを続けてきた。	○「読む力」の向上に結びついた。読むことは、国語だけでなく、算数や質問紙でも必要となるので時間内にすべての問題に取り組めたことにつながった。
	○授業中、本時の流れを児童に示し、見通しをもたせて学習するようしたり、家庭学習においても家庭学習ノートの学びの計画書を作成したりしてきた。	○学習方略のプランニング方略に効果が見られた学年があった。 ※プランニング方略・・・計画的に学習を進める力
	○業前活動として、「のびのび学習」（計算・漢字、ミニ作文）の時間を週2回実施した。	○基礎学力の充実と書く力の向上。

C 小学校	<p>○うきしろスタンダードの「き…きちんと整理され、課題とまとめが明確な板書」をもとに、◇◇小の約束を確認し、授業の流れが明確になるような板書を全教員が心がけた。</p> <p>具体的には、㊦（問題）㊧（課題）㊨（自力解決）㊩（振り返り）などの黒板に貼るカードをつくり、全学年に配布して授業の流れが同じように進められるようにした。また、問題は鉛筆で、課題は青鉛筆で、まとめは赤鉛筆で囲うなど、板書とノートを対応させた。</p>	<p>○見やすく振り返りがしやすいノートづくりができるようになった。授業の流れが明確になったことで、「今日の課題はなにかな」「次は見通しをたてるんだな」と児童が自分で考えて学習が進められるようになり、学習意欲が向上した。</p>
	取組	成果
C 小学校	<p>○昨年、「主語と述語の関係」「国語辞典の使い方」に課題が多く見られたため、全学年で、その学年でどんなことを意識して指導を行うか話し合いを行った。</p>	<p>○1年「はをへをつかおう」や3年「国語辞典の使い方」など、教科書のどの単元で意識すればいいのか教員が把握して授業を行うことができた。</p>
	<p>○読書タイム、読書感想文、読書月間により読書活動を充実させた。</p>	<p>○書く時の参考になるような表現を身につけられるようにしたため、書く能力が向上した。</p>
D 小学校	<p>○「伝え合う力をはぐくむ一分スピーチ」の取組。</p> <p>○授業ごとの小テスト、全校漢字・全校計算テストの実施</p> <p>○授業改善として、次に挙げるポイントを学習指導の中に組み入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張のキーワード・キーセンテンス・キーフレーズ等、重要な部分を抜き出す読み。</li> <li>・内容に対して疑問を持ち、それを解決するための読み。</li> <li>・その文中の意見・事実が正しいかを判断する読み。</li> <li>・文の内容に関し、自分の考えを発信する読み。</li> </ul>	<p>○話す聞く力の改善につながった。</p> <p>○基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○論理的思考が高まり、文章の内容を順序立てて理解でき、発言すべき自分の意見を持つことができるようになりつつある。</p>
E 小学校	<p>○木曜日をパワーアップ日課（特別日課）とし、5校時終了後の20分間を基礎学力補充の時間（パワーアップタイム）として年間を通して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2年は、読書や漢字・計算を中心に実</li> </ul>	<p>○3年生から、問題の注意点や要点を学級全体で考えることで、問題の意図や考え方が身についた。また、長文の問題を解くことに慣れてきた。</p>

	<p>施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～6年は、全国学テの過去問題やコバトン問題集・うきしろフォローアップシートを活用しての学習を実施した。</li> <li>・ 3年生以上に児童数分の問題集等を印刷して配付し、担任任せにせず確実に取り組ませる。</li> </ul>	
	○朝の活動を利用したドリル学習の実施（水…国語・金…算数 10分間）	○漢字や計算等、短い時間であるが繰り返すことにより基礎学力が定着してきた。
	○以前から実施していた家庭学習「ぐんぐんノート」に「うきしろ家庭学習ダイジェスト版」の内容を加えて家庭学習の充実を図る。（学習時間・場所の記入・めあて・振り返り・保護者の感想記入等）	○家庭学習の習慣が身についていたところに、めあてやふりかえりを記入させることで内容に深まりが見られるようになった。

## 【中学校】

	取組	成果
A 中学校	○数学の授業のはじめ5分間で、基本的な一行問題の復習プリントに取り組んだ。	○「数と式」などの理解に成果が出た。
	○英語で日記や日本の文化について書く活動において、モデルとなる文を提示し、ワークシートで英作文の型を示しながら指導した。	○英作文等の「書く力」の向上に結びついた。
	○漢字ノートを利用して、定期的にミニ漢字テストを実施した。	○言語能力の向上に結びついた。
B 中学校	○授業で「書く」課題を設定することを意識した。特に、使用する語句を指定し、字数制限(20～50字程度)も設け、取り組ませる指導を行った。	○記述式の課題に対しての抵抗が少なく、「書く力」の向上に結びついた。
	○少人数・TT指導により個別対応を細やかに行うことができた。	○少人数で行うことで生徒が意見を言いやすい環境になり、学び合い活動を積極的に行うことができた。そのことにより、基礎・基本の定着につなげることができた。
	○授業中に英語でのコミュニケーション活動やALTの先生とのコミュニケーションを取り入れたり、リスニング問題を着実に実施したりした。	○「聞くこと」の領域での正答率が高かった。
C 中学校	○ほぼ毎朝10分読書をしている。	○「読む力」の向上に結びついている。
	○板書の工夫を行い、「課題」のマグネットシートを貼り、本時の課題を明確にしている。	○学習のめあてを明確にさせることで、主体的な学びにつなげている。
	○数学においては、少人数指導を行い、つま	○生徒たちの数学に対する評価はどれも高

	ずきの段階を見逃すことなく、きめ細かな指導をしている。	く、それに伴い正答率も上がっている。
	○定期テストを含め、課題作文の取り組みを全学年で増やした。	○定期テストを含め、課題作文の取り組みを全学年で増やした。

【共通する特色】

- 特別日課や業前活動を活用し、基礎学力の定着や苦手分野の改善に向けた手立てを講じながら、学力向上を図っている。
- 校内漢字・計算テストを活用し、基礎学力の定着具合を確認・分析し、できていない分野については繰り返しの指導を加えている。
- 校内で研修を充実させ、板書の仕方や発問の工夫など「授業改善」に向けた取組を校内で統一させている。
- 県のコバトン問題集や学力向上シートを活用して、補助ワークシートとして活用している。